

令和 7 年度 県立佐和高等学校自己評価表

目指す学校像	1 平和と社会の正義を重んじ、誠実で自主的な実践力のある人間の育成 2 人格の陶冶と学力の向上に努め、真理を求める創造性豊かな人間の育成 3 文学や芸術を愛し、情操豊かな幅広い教養を身に付けた人間の育成 4 国家や郷土を愛するとともに、自他を敬愛し、協調と連帯の精神に富む人間の育成 5 心身の錬磨に努め、強靱な体力と忍耐力を備えた人間の育成			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
<p>校内フリーWi-Fi や電子黒板、クロームブック等の ICT 機器とロイロノート、スタディアプリなどの教育ソフトを活用した授業改善により、分かりやすく主体的・対話的で深い学びを実現する質の高い授業づくりに全教科で取り組み、成果をあげている。</p> <p>また、豊かな心の育成の一環としてボランティア活動の推進を位置づけており、全校生徒がボランティア活動に参加できるよう「全校ボランティアデー」を設けるとともに、ホームルームの年間活動計画にも、学校周辺の清掃活動や「海岸清掃ボランティア」などの時間を組み込み、思いやりの心や多様性を認める心の育成を図ることができている。</p> <p>生徒の持つ特長およびその進路希望を踏まえた進路目標を設定し、3年間を見通した進路指導、支援体制を確立する必要がある。</p> <p>地域との連携については、地域自治会との連携を密にし、地域ボランティアや各種対外活動等に積極的に参加するなど、地域に愛され信頼される学校づくりを進めることができた。</p> <p>学校ホームページの充実と記事の更新ペースの向上を図り、本校のもつ特色や魅力等についてより一層地域に発信していく必要がある。</p>		授業改善を通じた確かな学力を育む学びの推進	(1) 協働的な学びと ICT 機器を活用した質の高い授業づくりの推進 (2) 授業改善に向けた校内研修の実施と教員による相互授業参観の推進 (3) 生徒による授業評価（授業満足度）平均 3.4 以上の実現	A
		豊かな心の育成	(1) 豊かな人間性と社会性を身に付ける特別活動の充実 (2) 思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の推進 (3) 一人一人に寄り添う教育相談の体制の強化と生徒支援の充実	A
		未来を拓き夢を実現するキャリア教育の充実	(1) 一人一人の個性に寄り添った個別の進路指導・支援の充実 (2) 進路に関する実践的・体験的な活動の推進とキャリア・パスポートの活用の促進 (3) 自己の可能性の追求や自己実現に向けたキャリア・カウンセリング機会の確保	A
		地域住民に開かれ、信頼される学校づくり	(1) 地域のボランティア活動や行事等への積極的な参加の促進 (2) 地域に信頼される学校を目指す広報活動の充実と学校公開の推進 (3) 地域社会・保護者と連携した一体感のある学校づくりの推進	A
		教職員の働き方改革	(1) 長時間労働の解消に向けた教職員在校等時間の詳細な把握・分析 (2) 校務分掌の見直しによる教職員のワーク・ライフ・バランスの実現 (3) 教職員の勤務時間の適正化の推進	B
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会に貢献する、心豊かな人間の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応した学習活動とキャリア教育による、進路希望の実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	自分の進路実現を目指し、主体的に日々努力する生徒		

別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	豊かな人間として生きるための国語力の向上	I C T機器を積極的に活用するとともに、多様な言語活動を通じて授業の内容を充実させ、様々なもの見方、考え方、感じ方を知り、判断力及び幅広い人間性の育成を図る。	B	B ・生徒自身が学習に対する意欲を持ち、自宅学習を習慣化するための取り組みを教科全体で共有し、模索していきたい。
	自己学習能力の向上	反転授業（自宅での予習→演習や議論を行う授業→自宅での復習）を行うことで、家庭学習の習慣化を図る。	B	
	基礎・基本の充実	年間20回を目安に漢字テストを実施し、常用漢字の確実な習得を図る。	A	
		I C T機器、国語便覧等を活用し、教材の理解を深めさせる。	B	
進路実現のための指導	各学年において課外指導等を実施し、実力の養成を図る。 漢字検定を年2回実施し、資格取得を奨励する。	B		
地歴公民	基礎学力の充実	中学校での既習内容の発展的理解を目指すとともに、課題提出や小テストの実施、視聴覚・I C T教材の活用等によって、高等学校の地歴・公民教育に必要な基礎的知識の定着を図る。	A	B ・多様な進路実現に向けた授業や、課外授業の実践の強化。
	分かりやすい授業の実現	I C Tを効果的に活用し、映像資料など生徒が視覚的に理解できる工夫を凝らし、分かりやすい授業を実現する。	B	
	進路実現のための指導	共通テストを意識した授業の実践や、課外授業の実施をすることで実力をつける。	B	
数学	基礎学力の充実	教科書準拠の問題集を活用し、問題演習を通して基礎・基本の定着を図る。	B	B ・家庭学習の習慣を身に付け、基礎的な知識・技能を自主的に習得しようとする態度を育てたい。
		単元テストや課題などを通して、予習・復習を促し家庭学習の習慣化を図る。 補習や課外などを行い、数学の基礎学力及び実力の向上を図る。		
実力の養成	I C Tを活用した効率的な授業を行い、実力の養成を図る。	B		
理科	豊かな科学的素養の涵養	I C Tなどを積極的に活用するなど、興味・関心をひく授業の工夫と分かる授業の展開を心がける。 日常生活での科学の役割や地球環境とのかかわりを重視して指導を行う。 データの分析方法や仮説の立て方の例をもとに、科学的な考え方を養い、表現や発表する力を身に付けさせる。	B	
		進路実現のための指導	小テストや課題による学習の理解度・到達度を確認するとともに、宿題を与えるなど家庭学習を定着させて、基礎学力の向上に努める。 課外授業等において問題の解答法などをきめ細かく指導する。	A
	保健体育	健康的な生活習慣の確立	単元ごとに自己の健康課題の発見、解決策について思考・判断する授業を展開し、自ら健康管理をすることの大切さを理解させる。	B
生涯スポーツの基礎の確立		技術上達のための工夫や種目の特性など運動についての科学的理解を深めさせる指導機会を増やし、楽しさや喜びを体験させる授業を展開する。	A	
体力の向上		年間を通して効果的な体づくり運動を取り入れるとともに、活動時間を多く確保することにより、体力の向上を図る。	B	
音楽	音楽体験の充実	I C Tを活用して適切な教材選択を図り、様々な楽器やジャンルの音楽体験をし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。	A	B ・一つ一つの活動に時間をかけた結果、例年よりも取り扱った単元が少なくなってしまう。理論に触れる時間も大切にしたい。
	表現技術の向上	楽譜に書いてある記号の意味や意図を自分なりに読み取り、個性豊かな創意工夫ある表現を目指す。	B	
美術	美術を愛好する心情、豊かな感性の養成	様々な技法や素材を用いた作品の制作を通し試行錯誤させることで、表現の活動を十分に経験させる。 言語活動を中心とした鑑賞を行うことで、他者見方、考え方を共有し、自己肯定感を持たせる。	B	B ・表現活動の中で、新しい題材の検討や、効果的なI C T活用の模索を継続していく。
	美的体験の充実	I C Tを活用した制作や相互鑑賞を行うことで、主体的に鑑賞や表現活動に取り組む態度を養成する。	B	

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

教科	英語	確かな学力の養成	様々な英文に触れることを通して、情報や考えを的確に理解したり、自分の考えを適切に伝えたりする英語力を身につける。また、その英語力で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 英検の問題に対応する英語力を養成する。 ICT をより活用して Speaking や Writing におけるアウトプットの機会を多く設ける。
		スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベートなどの言語活動を通して、「話すこと」「書くこと」といった英語のアウトプットを強化する。パフォーマンステストを年2回実施することにより評価し、学習動機を強化する。ALTを週3日活用し、興味関心を喚起する。	B			
	家庭	大学入学共通テストや民間テストへの対応	英検等の英語外部試験を実施し、大学入学共通テストや4技能試験に対応した学力の習得を目指し、生徒の希望に応じた進路実現に寄与する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度大幅に変更した被服製作については次年度もこの方法を継続し、効果の検証を図る。
		社会の変化に対応した指導の充実	最新の情報を教材として使用し、ICTを活用して、衣食住の他、保育・福祉・消費生活など、家庭生活に関する幅広い知識と技術を身に付けさせる。	B		
		実験・実習、体験学習の工夫	限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を行い、体験を通して実践的に学習させる。	B		
	情報	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進	ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させるとともに、科学的な視点をとり入れた学校家庭クラブ活動を実施し、地域との交流を活発に行い、その成果を発表させる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ネット上の情報の真偽を見極め、利活用できる力を充実する。 コミュニケーション能力のより一層の充実を図る。
		情報に関する知識と技術の習得	実習を年間授業時間の5分の2以上行うことにより、情報機器およびアプリケーションソフトの基本的な知識と技能を修得させる。	B		
		情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成	多くの情報の中から、自分に必要な情報を適切に収集、処理し、それを発信することができるようにする。情報の受発信者としての法令遵守およびモラルとネチケットに気を付けられるよう、情報社会の一員としての自覚を育む。	B		
	教務部	コミュニケーション能力の習得	実習時に相互に教え合う環境を整え、プレゼンテーションスライドの作成・発表等を通してコミュニケーション能力の充実を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善の取り組みを継続する。 ICT 活用のための研修および情報発信を継続。特にAI活用を模索する。 ホームページの更新を継続。X等SNSと学校ホームページの連携を図る。 Google Workspace for Education Plus の拡張機能利用を模索する。 端末内部だけでなく、端末そのものや書類の管理についても注意喚起する。
授業の改善		相互授業参観、生徒による授業評価、生徒と教員の意見交換会、校内研修等により授業の改善を図る。	A			
生徒の主体的・対話的な深い学びの推進		学習目標・学習計画を明確にし、学習環境を整えて、主体的に学習する態度の育成と対話的な学びを推進する。そのため、ロイロノート等を積極的に活用する。	B			
教育活動におけるICT化の一層の推進		電子黒板、Chromebook 等を活用し、生徒にとって楽しくわかりやすい授業を提供できるように、職員に対しICT活用に関する研修や情報提供を行う。特にGoogle Workspace for Education Plus の活用を促進する。また、デジタル教科書や授業に必要なアプリケーションソフト、ハードウェアを整備する。さらに、生徒が、学習活動はもちろん、ホームルーム活動や部活動等で積極的にChromebookを使った活動ができるように支援する。	B			
魅力ある学校づくりの実現		進路希望別類型の効果的な運用のため、教育課程の見直しを図る。また、他の分掌や各学年および教科と連携を図り、ランドデザイン、年間行事予定を作成する。	B			
広報活動の充実		本校ホームページのデザイン改善、定期的な更新、ソーシャル・ネットワーキング・サービスの積極的な活用を通して開かれた学校を目指す。学校パンフレット、ポスターの制作や魅力ある学校紹介動画を作成する。部活動の体験を含めた学校説明会を実施する。また、その他の見学希望にも柔軟に対応する。	B			
備品・設備の充実		職員室や印刷室等の備品等の整理及び整備を行う。教育活動に必要な備品を整備する。	B			
ICTによる業務効率化		情報共有や伝達にICTを活用する。定期的にサーバーの保守点検を実施し、システムを維持する。職員のICTスキル向上をサポートする。特に、Google Workspace for Education Plus の業務への活用を促進する。	B			
情報セキュリティの厳正なる管理	定期的に情報セキュリティについての注意喚起を行い、職員の情報セキュリティに対する意識を高めるとともに、ソフト及びハードウェアの管理を徹底する。	A				

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

進路指導部	3年間を見通した進路指導体制の確立	各学年・各教科とも連携し、進路希望の実現に必要な学力向上のための具体的方策を検討し、実施する。3年間を線で結んだような各学年の時期ごとに適した進路行事を計画・実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路行事の見直しとともに、学年単位から3年間を通した進路計画の作成する。 各HR単位における進路資料の作成及び提供を行う。
	LHRや総合的な探究の時間における「進路指導に関する項目」の充実	各学年のホームルーム担任と連携し、進路に関わる指導に有効な情報及び進路資料の提供等を行う。	B		
	「進路の手引」の充実とその積極的活用	入試や社会の変化をふまえた上で生徒の実態に即した「進路の手引」を作成し、LHR等において活用の仕方等を指導する。	B		
	進路相談の充実、進路指導室の活用の推進	昼休みと放課後における進路指導室の教員常駐化を実施し、生徒の進路相談、情報提供、資料の閲覧等に応じる。	A		
	外部機関(大学、短大、専門学校、企業等)との連携	看護体験、病院見学会、各種ボランティア、オープンキャンパス、進路説明会、公務員対策講座等へ早い時期から可能な範囲での参加を促す。また、Webオープンキャンパスの積極的な利用を促す。	A		
生徒支援部	基本的な生活習慣及び社会的な生活習慣の確立	登校時に、校紀委員等とともに立哨指導を行い、挨拶の励行を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 自転車走行に対する外部からの苦情が増加しており、HR等を通じて注意喚起し、生徒の心に訴えていく。 いかに生徒の「普通」を知るかが大切である。生徒の実態を把握できれば、トラブルの未然防止につながる。
		身だしなみをきちんとするために、毎日の指導をはじめ、毎月設定するマナーアップ週間、学期始めや休業明け・考査最終日等に服装頭髪指導を行う。			
		遅刻防止を図るため、遅刻カードを利用し、時間の大切さを自覚させる。			
		スマートフォン等の使用に関して、LHRや集会等で注意を促し、マナーの向上を図る。			
	交通安全と事故の未然防止	「交通安全教室」および「スマホ安全教室」を実施する。	B		
		毎週2回の立哨指導、月2回の校外立哨指導等を実施する。			
心の教育の充実(いじめ防止)	必要に応じて校内巡視を実施し、生徒の日常生活に目を配る。	B			
	生徒の実態把握・理解のため、職員間での情報交換を密にする。				
	教員からの声掛けを励行し、トラブルやいじめの未然防止に努める。				
特別活動部	心の教育を重視したホームルーム活動	ねらいに沿った綿密なLHR年間計画の作成と時間の確保を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 講演等の行事でLHRの確保ができない。 生徒会を中心としたボランティア活動が充実していた。次年度も、ボランティア活動の充実を図りたい。 ボランティアデーの開催時期は熱中症のリスクを考え10月が望ましい。講師の高齢化により2回の講習は難しく来年度も今年度と同様の計画で行う。 校内文化祭、公開文化祭、芸術鑑賞会のサイクルを検討する。 次年度の計画と準備を早期に進める。
		クラスマッチ、スケートやボランティア等の体験をすることによって、生徒同士が真剣に語り合えるようなクラスの雰囲気づくりを図る。			
	活力を生み出す学校行事	季節イベント等生徒に感動を与える生徒による行事づくりを企画する。	A		
		生徒の自主的な企画を尊重して、積極的な参加につなげる。			
	生徒会活動の推進	ボランティアデーで生徒の意識を高め、海岸清掃ボランティア、保育園ボランティア活動、マナーアップ運動等を企画し、地域社会に貢献できる活動に主体的な参加を促す。	B		
		アンケート等で生徒の意見を取り入れ、生徒会行事や生徒たちの企画、課題を生徒評議会で定期的に話し合う。			
	部活動の活性化	生徒の達成感が得られるように一層支援する。	A		
年度当初の新入生への部活動紹介を生徒主体の運営にするなど工夫し、加入率の向上を図る。					
生徒会予算査定委員会の設置し、部活動の予算を部員数により配分するなど生徒による生徒会予算づくりができるようにする。					
施設の有効利用	部活動顧問会議、部活動運営委員会等を通して、円滑な活動を推進する。	A			
	多目的ホールでイベントを開催したり、コスモホール、トレーニング室等を整備し、積極的な活用をする等施設の有効利用をする。				

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

保健厚生部	健康教育の充実	保健委員会の指導と、生徒への健康相談及び健康教育（講演会含む）を充実させる。また、健康診断の結果に基づき、必要とされる健康教育・健康相談を行い、適宜に専門家の指導を仰ぐ。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 消防署と連携し、災害発生時を想定した実践的な防災訓練に向けた実施内容の見直し。 教職員と生徒による安全点検の実施内容や項目を見直し、より安全な環境作りを目指す。 ICTを活用し、業務遂行の見直しや業務改善をおこなう。
	防災意識の高揚	地震・火災・原子力災害等を想定した防災訓練を実施し、生徒の危険予測・危険回避能力の向上を図る。危機管理マニュアルに基づき、全職員の役割分担のもと、円滑かつ迅速な避難誘導を行う。	B		
	学校の生活環境の整備	整備委員会の指導と、日常的に学校内の美化、安全点検を行うとともに、定期の詳細な安全点検により学校環境の整備を図る。また、熱中症・感染症予防対策を実施して、生徒が安全で安心して過ごせる環境を整える。	B		
	奨学金業務の円滑化	奨学金関連の文書の管理を適切に行い、迅速な生徒への情報提供と応募生徒の個別支援を行う。	A		
図書部	教育活動に必要な資料、図書の整備・充実とその積極的な活用	希望図書、教科関連図書、学習参考書、視聴覚資料を適切に選定・購入する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 委員会活動を充実させることができた。特にビブリオバトルが大盛況であったので次年度も継続して行いたい。 体育館の改築が完了するので、放送室の管理について学校全体で共通理解を図りたい。
		各教科、ホームルーム担任、進路指導担当との連携を密にし、図書館の積極的利用を促進する。			
		ビブリオバトル等の図書を用いた行事を企画し、実施する。			
	図書館充実のためのサービス向上	図書の適正・迅速な購入、レファレンスサービスを推進する。 学習並びに進路選択のための資料を関係教員・生徒に提供する。	B		
	図書委員会・視聴覚委員会活動の充実	図書委員会では、学校図書館の環境整備や各種研修会への積極的な参加を推進する。 視聴覚委員会では、儀式・集会等に向けての機器の準備やお昼の放送の充実を図る。	A		
	学校生活に対応した視聴覚機器の整備	授業・行事等に対応した視聴覚機器の環境整備に努める。 視聴覚機器のメンテナンスおよび活用に取り組む。	B		
渉外部	PTA活動における行事の精選との参加促進	PTA総会の出席率向上（24%超え）を目指す。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> HPでの活動報告およびスタサブを通して各行事への更なる参加を促していきたい。
		各学年委員会、各専門委員会活動の精選と参加しやすさを目指す。			
		PTAふれあい講座・視察研修などの内容の充実、及び参加率の向上を目指す。			
同窓会との連携	定期的な情報交換を実施する。	B			
第1学年	基本的生活習慣の確立	毎日の清掃を徹底させ、学習環境の整理整頓に努めさせる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活や学習において、相互理解に努め、人の話を良く聴き、整った服装で生活することの重要性を継続して伝えていく必要がある。 外部試験やWEB学習システムを活用し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。 問題を抱えている生徒に対し、学年団として多角的に生徒を支援する学校・学年・家庭の連携した体制づくりを目指す。
		立哨指導や集会時の指導等を通して、挨拶の励行、相手を尊重し他者の話をよく聞くという基本的なマナーを身につけさせる。			
		定期的に行う服装・頭髪指導等により、整った服装・頭髪と規律ある生活をさせる。			
		各教科との連携を図り、チャイムと同時に着席させ、日常の授業に集中して取り組ませる。			
	基礎学力の向上	朝の読書に取り組むことにより、時間を守るなどの基本的な生活習慣の定着を図る。また、読書の習慣を身につけさせるとともに、落ち着いて授業を受ける学習態度を養う。	B		
		進路指導部との連携によるガイダンス等を通じて生徒の進路意識を早期に確立させる。			
		課外、希望模試、外部英語試験、学習支援プログラム等への積極的な参加を奨励する。			
		学習動画やスタディサプリを活用し、家庭学習の習慣の定着を図る。			
生徒指導・生徒支援の充実	面接等を通して、学校生活への円滑な適応を指導・支援する。	A			
	心身面で問題を抱える生徒に対して、教師・スクールカウンセラー及び家庭との連絡を密にし、迅速に対応する。				
特別活動の充実	部活動、委員会、生徒会、ホームルーム活動等に積極的に参加させ、幅広い活動を体験させる。	B			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない

別紙様式2 (高)

第2学年	基本的生活習慣の確立	挨拶をはじめ、基本的生活習慣を確立することにより、生活全般の自己管理能力を育成する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較すると標準服を正しく着こなすことのできない生徒が目立ち、欠席・遅刻の多い生徒が多数みられた。最終学年に向け、服装や挨拶等の基本的マナーに加え、自己管理能力と正しい生活習慣を身に付けさせる。 ・多様な進路実現に向け、個に応じた適切な指導体制を整える。 ・推薦入試に対応できるプレゼンテーション能力や文章表現力を育成する。
		家庭との連絡を密にして、欠席・遅刻・早退等の保護者からの連絡を徹底させ、規律ある生活をさせる。			
		チャイム着席を徹底させ、授業に集中できる環境づくりに努める。			
	学力の定着と向上	各教科と連携しながら自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。	B		
		朝の読書に取り組むことで、読書の習慣を身につけさせることと、落ち着いて授業を受ける学習態度を養う。			
進路指導の充実	漢検・英検等の資格取得を促す。	A			
	平常課外・長期休業中の課外・模擬試験・学習セミナー等に積極的に参加させる。				
生徒指導の充実	小論文模試、ガイダンス等の実施により、希望進路への実現に向けての文章表現力を養成する。	B			
	進路ガイダンスや進路講演会等の進路行事を通して進路意識の高揚を図り、進路目標を確立させる。				
特別活動への積極的参加	個別面談を通して生徒個々の適性や能力等を把握し、進路意識を高め希望進路の実現に向けて継続的な指導を行う。	A			
	S HRや立哨指導で服装・頭髪指導を継続的に行い、品位ある服装・頭髪や挨拶などのマナーを定着させる。				
第3学年	生徒支援の充実	心身面で問題を抱える生徒に対しては、教師間及び家庭との連絡を密にし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携して一人一人に寄り添う支援を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路について「言われてから動く」生徒もいた。計画を立てて行動する力を早い段階から育成する。 ・学年や関係の先生方を中心に進路指導を丁寧に行った結果、多数の生徒の進路を実現させることができた。今後はその過程や実践を次学年に引き継ぎ、継続した体制作りに協力したい。 ・基本的マナーの定着と正しい判断力の育成を図る必要があり、1学年時からの指導の積み重ねの重要性を共有する。
		部活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動に積極的に取り組ませる。			
		体験的な活動を通してコミュニケーション能力を高め豊かな心を育成する。			
	学力の向上	進路希望実現を念頭に置いた生徒支援に努める。	B		
		「信頼される社会人」となる準備として、正しい服装や挨拶などの基本的なマナーを身に付けさせる。			
	進路希望の実現	清掃等を徹底させ、学習環境の整備に努める。	A		
		心身面で問題を抱える生徒に対しては、教師間及び家庭との連絡を密にし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携して一人一人に寄り添う支援を行う。			
		チャイムと同時に着席させ、授業に集中できる環境づくりに努める。			
		課外や学習セミナー、模擬試験等へ積極的に参加させ、大学入試に対応できる学力を身に付けさせる。			
		英検・漢検等を推奨し、資格取得を促す。			
特別活動への積極的参加	生徒の実態に応じて授業の形態を工夫し、主体的に授業に取り組ませる。	A			
	各教科との連携を深め、自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。				
	朝読書を実施することで、落ち着いた生活リズムの定着を図る。				
特別活動への積極的参加	面接指導やガイダンスなどを通して、進路希望実現のための小論文・面接等の助言・指導を徹底する。	A			
	オープンキャンパス・進路相談会等への主体的な参加を促すための指導・支援を行う。				
特別活動への積極的参加	ガイダンス・集会・面談など、総合型選抜、推薦・一般入試等の多様な入試形態に対応できる指導体制を整える。	B			
	社会に貢献できる力を身に付けるために、部活動・生徒会・委員会・ボランティア活動等に積極的に参加させる。				

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない